

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100126		
法人名	株式会社 さわやか倶楽部		
事業所名	グループホーム みどりのき		
所在地	〒801-0883 北九州市門司区大久保1丁目9番2号	093-321-8800	
自己評価作成日	平成25年08月10日	評価結果確定日	平成25年09月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成25年09月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じウチヤマグループである、株式会社ボナーの協力により、外食レクリエーションやケータリングが行える。民生委員からの情報により、地域行事に時々参加している。地域の小学校児童が夏休みなどを利用して時々訪問して下さる。ハード面は、建物を囲むようにベランダがあり、入居者が自由に行き来している。ベランダから陽が射しこみ、昼間でも非常に明るく、気持ちが良い。職員が献立考え、バランスの良い食事を提供している。隣接する介護付き有料老人ホーム さわやか和布刈館と運動会や夏祭り、ホットケーキ、お好み焼き作りやもちつき、歌レク、別府温泉旅行など、同グループで協力し合い、行事を行っている。介護サービス相談員の受け入れを行い、入居者様の相談に乗ることにより、ストレスの軽減を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービス、有料老人ホーム併設の「みどりのき」は、自然が残る関門海峡を眺望できる高台に位置し、1ユニットのグループホームである。複合型福祉施設の長所を活かし、運動会や夏祭り、餅つき大会に地域住民と家族が参加し、地域の行事には職員と利用者が一緒に参加する等、活発な地域交流が始まっている。協力医療機関による2週間毎の往診と、きめ細かな観察が出来る職員が連携し、チーム介護を活かし、利用者の健康管理は充実している。管理者は職員に、利用者が今の状態を維持し、何時までもホームで暮らし続けることを目標に掲げ、自立支援に向けて、出来るだけ手を貸さず、時間がかかっても自分で食べていただく等、利用者のやる気に繋がる支援に取り組み、身体機能の維持、向上を目指して、職員が一丸となって努力している「グループホーム みどりのき」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に「家庭的で安心した生活」「個性、能力の発揮」という独自の理念を掲げて、入居者様のできる力をできるだけ奪うことがないようにしながら支援している	ホーム独自の理念を掲げ、法人の理念と共にミーティング時に振り返り、理念の共有に努めている。折り紙や刺繍をしたり、洗濯物の畳み、掃除等、出来るだけ利用者の能力を活かしながら家庭的で安心した暮らしが出来るよう支援している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民センターで行われる行事、港ヶ丘小学校との交流を行っている 近くのお寺で行われる盆踊りに毎年参加している	自治会に加入し、市民センター行事の、ふれ合い昼食会や朝市への参加等、利用者手作りの刺繍の作品をシルバー文化祭に出展している。また、近隣の小学校の文化祭を見学したり、お寺の盆踊りに参加する等、少しずつ地域との交流の輪が広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の構成員に対しては交流がある為、認知症の方との触れ合いがあり、多少理解できていると思うが、対外的にはしっかりと活かすことができていないと思う		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	水分摂取のためにジュースを寒天で固めたものを作り、見栄え、味などを評価していただき、改善した	家族や町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員参加で、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。ホームの現状や行事報告を行い、参加員からの情報提供がある。会議では、高齢者の肺炎や帯状疱疹について勉強会を行う等、参加者が、知識を持ち帰ってもらえるような取り組みを行っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	門司統括センター職員とは協力関係を築いている。 法令上のことは法人が一括して市に質問し、全施設に周知している	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、助言や情報提供を受け、包括が中心になって、門司地区のグループホームの管理者を集めて連絡会を立ち上げる等、積極的な交流を行いながら、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設の危険がある入居者様がいらっしゃるため、必要に応じて施錠している。身体拘束を行った事例はない 身体拘束に関する勉強会は半年に一回行っている	年2回勉強会を開催し、身体拘束をする事によって利用者に与える弊害について学び、職員一人ひとりが利用者の立場に立って、拘束の無い介護サービスに取り組んでいる。	利用者の状態の変化に伴い、頻繁にあった離設も、落ち着いてきたので、玄関の施錠については、24時間の施錠が常態化しないように、見直しを行う事を望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	半年に1回勉強会を行い、また不定期で管理者による夜間の見回りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見センターを利用した例が今までで3件あり、職員には周知できている。以前運営推進会議で取り上げた。職員会議の場で説明を行った	現在、日常生活自立支援事業を利用している方が1名いる。以前、成年後見制度を利用している方がおられたので、制度については、職員は経験を通して理解を得ている。利用者を守るための大切な制度であるため、利用者や家族に説明し、勉強会で職員に周知を図り、必要な時には活用出来るよう支援している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、十分時間をとり、利用者ご家族の質問には答えるようにしている。管理者がわからないことについては法人や行政などの関係機関に確認してからおこたえるように努めている		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関しては苦情があった場合に報告書を作成し、苦情改善ボードの設置を行っている。また、毎月の請求書を送付する際にアンケートを同封している	意見箱を設置していたが壊れてしまったので、また作り直す予定である。苦情改善ボードを設置しているが、家族は面会時等に直接要望や意見を伝えられる事が多く、出された意見や要望は、出来るだけホーム運営に反映出来るよう努力している。また、毎月送付している個別のホーム便りは家族に大変喜ばれている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ミーティングを行い、業務に反映している	月に1回フロアミーティングを行い、職員はほぼ全員参加している。行事計画や備品、利用者の状態について話し合い、気付きを伝え合っている。職員から出された意見は、出来るだけ運営に反映できるよう努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現任者、または外部研修に参加の機会を設けている。希望休はとらせている		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢が採用の判断基準になることはなく、やる気のある職員を雇用している	職員採用は、人柄や介護に対する考え方を優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。職員の希望休や、勤務体制にも柔軟に対応し、資格取得のための応援体制もある。また、休憩時間については、一緒に食事をした後に、職員間で声を掛け合って時間を取る等、職員の定着を目指し、少しずつ処遇改善に取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	半年に一回高齢者虐待防止、身体拘束防止の勉強会を行っている	年2回、身体拘束廃止と高齢者虐待防止に関するホーム内研修を実施し、利用者の尊厳を守り、自由でのびのび暮らせる介護の在り方を、職員全員で話し合い、言葉掛けやトイレ誘導、失禁時の対応等、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスの提供が実践できるように努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の研修やその他外部研修、現任者研修の参加を促している		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で行われる勉強会、門司の他法人のグループホームとの勉強会を行っている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメント時に本人ご家族より希望を聞く。センター方式を利用し、ご本人の好きなこと、嫌いなこと、習慣などについて記入し、ケアプランに生かしている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメント時に本人ご家族より希望を聞く。面会時やその他電話などで定期的に聞くようにしている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームはほかの介護保険サービスを利用できない。歯科、内科の訪問医とは連携している		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人のADLに沿ってできる方は行っている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と外出できる機会をご家族のほうから設けて頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	市民センターでのイベント、近隣の方の訪問者を受け入れている	隣接のデイサービスや有料老人ホームを、利用されている友人、知人に会いに行ったり、行きつけの美容院やかかりつけ医の受診支援等、利用者の馴染みの関係が継続できるように支援している。また、近くの市民センターの行事に参加し、懐かしい方と談笑する等、利用者の生きがいに繋がる支援に取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が、隣同士に座り、会話できるように支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後はケアマネージャーを通じて行っている		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用しながら希望や意向に沿えるようにしている	利用者の重度化が進む中で、職員は、利用者の要望や意向を会話の中から汲み取る努力をしている。センター方式を活用し、昭和の良き時代の話や、利用者のこれまでの人生の話をお聞かせしてもらう中で、利用者の思いや意向を把握し、記録に残す等して、日常的な介護に生かしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用している。ご家族へのヒヤリングを行っているがご家族本人もわからないことが多い		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を使用している		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議などで生活の状況などを話し合い、介護計画を立案している	職員は、家族と話し合う機会をつくり、利用者の健康状態や、認知の進行状況等を報告し、介護計画の作成について相談している。利用者や家族の要望を優先し、関係者で検討した上で、介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、介護計画を見直し、利用者本位の介護サービスの実践に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアプランを実践する都度書き込んでいる		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療と連携をとっている。同法人の他施設との情報交換は行っている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清見市民センター、港ヶ丘小学校、正蓮寺と交流を図っている		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクター以外の医療機関に、ご本人ご家族の希望に沿って受診できるように配慮している	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診を支援している。現在、定期的な往診が出来る提携医の利用者が増え、24時間安心して医療受診出来る体制が整ってきている。また、入居前からののかかりつけ医受診の利用者には、連絡事項等があれば管理者が手紙で伝え、結果についても報告を受ける等、医療情報の共有に努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護の配置はないが、傷の状態や病気の状態をさわやか和布刈館の看護師に観察してもらい、必要なときは外部へ受診している		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時にはソーシャルワーカー、ご家族を交え、権後の生活について話し合う機会を設けている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人またはご家族の意向に沿って医療行為がない場合は看取りを行えることを説明している	ホームで出来る支援について、早い段階から家族と話し合っている。利用者の重度化に合わせ、利用者や家族の意向を聴き取り、主治医や関係者と話し合い、医療行為が発生しない場合の「看取り」について、介護の在り方を職員全員で共有し、利用者の重度化や終末期の支援に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際に備えての訓練は行った事例はない。 ガーゼ処置のみを行っている	/	
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度、避難訓練を行っている。地域との協力体制については、町内会長や民生委員と電話番号は交換しているが、実際に訓練に参加した事例はない		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	要介護度が上がり、身体機能が低下したためトイレにどうしても職員が付き添わなければいけない状況のため、必要時のみトイレ介助を行っている	職員は、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、優しい言葉かけや、話す位置、目線等に注意しながら日常の会話に取り組んでいる。利用者との長い付き合いの中で時として馴れ合いになる場合があるので、職員は常に礼節を持って利用者とは接するよう努めている。	職員一人ひとりが、利用者の介護に精一杯努力しているが、耳の遠い利用者に合わせて遠くから大きな声で話しかけたり、排泄時の声掛け等、利用者の羞恥心に配慮した優しい言葉かけを期待したい。
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着たい服や施設内での行きたい場所についてはご本人の意向に沿う形にしている。3か月に1回、食事の嗜好調査を行い、献立に取り入れている	/	
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自由に過ごしている。定期的に体操などを行っているが基本は自由に過ごす		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に洋服の嗜好を聞き、ご本人の好きな色の服などを買ってもらっている。	/	
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる入居者様にはお手伝いいただいているが、調理は難しくなったので、配膳や後片付けを手伝っていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成している。水分量については個人記録に記入している。嚥下の悪い入居者様や咀嚼の力が弱くなった入居者様については形態をその方にあった形に変更している		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後行っている。寝る前はポリデントに義歯をつけている		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に全員が布パンツや紙パンツで、体調不良者以外はトイレ誘導を行っている	トイレでの排泄を基本とし、職員は、チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、タイミング良く声掛けし、失敗のない排泄支援に取り組んでいる。また、利用者全員が、布パンツとりハビリパンツを使用し、自信回復に繋がる排泄の自立支援に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を記録し、足りない方については定時の水分補給以外に行い、また下剤の使用や麦飯、ヨーグルトを提供し、便秘解消に努めている		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は入居者様の希望やタイミングに合わせているが、拒否される方が多いため、別の曜日やタイミングをずらしている。基本的には体調不良等を除き、週3回入浴する	入浴は週3回を基本としているが毎日入浴する事も可能である。利用者の体調に合わせて、無理強いをしない、楽しい入浴になるように支援している。拒否される利用者には、職員が交代してタイミングを見ながら声掛けし、利用者の自己決定を尊重している。また、季節によっては菖蒲湯等にして、季節を感じて入浴出来る支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の就寝時間に沿って、早い方は19時、遅い方は22時という風に寝たい時間に臥床している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイリングして、職員がいつでも閲覧できる状態にしている。臨時で処方があった場合はホーム長より申し伝える		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を楽しめる方については行えるように支援している。嗜好品についてはその方の馴染みのものを持ってきていただくようにご家族にお願いしている。職員付添いの外出以外にご家族にも支援を依頼している		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が出れない場合はご家族に支援を依頼し、御本人の行きたいところに行っている	気候の良い時期は、利用者の希望を聴きながら、散歩や買い物、外食やドライブ、隣接施設に遊びに行く等、出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。最近では個別対応が増え、家族との外食や自宅に帰宅したり、買い物等に出かけたりしている。恒例の温泉旅行には今年は2名の利用者が参加された。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のために、現金の所持は行っていない		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の娘や親せきより手紙が来ることもあり、返信している。また電話にもご本人に出て頂きお話される		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダの出入り口より日光が差し込み非常に気持ちがいい作りになっている。各部屋には表示がしてあり、入居者様が混乱しないような工夫がしてある。季節感のある食事の提供に努めている	高台にある建物は、ぐるりと囲む広いデッキに出ると潮風を感じながら散歩を楽しむ事も出来る。利用者は、広いゆったりとしたスペースの中で、計算ドリルや洗濯物畳み、折り紙や塗り絵に取り組む等して一日の大半を過ごし、穏やかで生きがいのある暮らしが出来る共用空間になっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様は居室にいたいときは居室で過ごし、フロアに出たいときははで、思い思いの生活ができています		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものを持ってきていただき、安心して頂けるような環境作りに努めている	居室は、利用者の使っていた馴染みの筆筒や机、椅子やテレビ等持ち込んでもらい、落ち着いて過ごす事の出来る室内となっている。また、利用者の状態を見ながら安全に配慮して荷物を片付ける等、一人ひとりに合わせて居室の環境作りに取り組んでいる。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人のできることを奪うことがないように支援している		